

夢みるこども 基金だより



平成17年9月15日

2005 No.10

発行：夢みるこども基金事務局
〒810-0042
福岡市中央区赤坂1-12-6 赤坂Sビル2F
☎092-751-0021 (代)
FAX 092-751-0249
✉yumemirukodomo@standbyyou.com

www.standbyyou.com/yumemirukodomo

第11回 イベント 阿蘇の大自然の中で友情の輪広がる

11年目に入った夢みるこども基金(理事長 長井堂孝純・日本歯科医師会会長)の第11回イベント「キャンペーン」のふる里で新潟・山古志、福岡・玄界島の震災地の友と交流」が7月30、31の両日、熊本県阿蘇・高森町で開かれた。

全国の小、中学生から集めた作文・イラストの作品1571点のほぼ2割が地震に関する内容だったため、春の「こども会議」で震災地の友を招くことに決まった。

阿蘇でのイベント開催は、第1、2回(いずれも旧久木野村)以来9年ぶり、キャンペーンのおふる里に帰ることになった。

参加したのは、基金の「こども会議」の出席者15人、山古志の小、中学生24人、玄



「夢」を託した手形をつり下げるこどもたち

新潟・山古志
福岡・玄界島

震災地のこどもたちも加わり最高の盛り上がり

界島の小、中学生29人、地元のホームステイ先のこどもたち54人。これに、付き添いの家族、基金の役員、ボランティア、高森町民など総勢約650人とこれまで最多の参加者でにぎわった。

30日の前夜祭は、上色見小学校(平成15年3月末で廃校)跡。福岡から貸し切りバスで到着したこどもたちは顔合わせをした後、校庭に基金の旗を揚げた。モニュメントの手形作り、バーベキュー、ゲーム、花火などですぐ仲良しになり、ホームステイ先に向かった。

31日は午前中、雨に見舞われた。こどもたちが楽しみにしていた乗馬はできなかつたが、グランドゴルフ、ラクダの木工品と

紙飛行機作り、竹馬乗りなどを楽しんだ。正午から場所を高森町民体育館に移して開会式。秋山治夫理事長代行(福岡県歯科医師会会長)が「夢は生きていく上で大きな力になります。どんな時も夢を掲げて頑張ってください」と挨拶した。

「こども会議」の代表3人が、それぞれの「夢」を披露。山古志と玄界島の代表各1人が、震災時の様子を報告「全国の人たちから励ましを受けて、とてもうれしかった。元気をもらったので必ず復興します」と力強く語った。

このあと、こどもたち全員が、山古志と玄界島のイベントに参加できなかった友だちのために作ったラクダの木工品の土産品を贈呈。基金のこどもたちが「このイベントを通じて、私たちは互いに支え、支えられて生きていくことを感じました。この出会いを胸に刻み、夢を持ち続けて一生懸命生きて行きたいと思います」とのこども宣言を発表した。

アグネス・チャン理事の歌の披露に続き、こどもたち全員がステージに上がり、会場の人たちも加わり、基金のテーマソング合唱で閉会した。

会場を出たこどもたちは、それぞれの「夢」を記した手形をモニュメントの杉の木につり下げ、阿蘇の大自然の中で育んだ友情を胸にしまい、大勢の人たちの「またおいで」頑張つて」などの見送りを受けて高森町を後にした。

イベントの様子はほとんどの新聞、テレビ、通信各社から大きく報道してもらい、最高の盛り上がりだった。

交流

イベント当日の31日午前中は、上色見小学校体育館と一部は高森町民体育館で、色々な遊びのコーナーを設置し、スーパードール紙飛行機作り、竹馬、グランドゴルフ、木工品作りなどを楽しんだ。この日はあいにくの大雨で、予定していた乗馬は中止になってしまったが、こどもたちの元

気な声は雨に負けることなく体育館中に響き渡っていた。
中でも木工品作りは、今回イベントに来ることができなかった山古志、玄界島の他のこどもたちにお土産としてイベント参加のこどもたちによって作られた。動物を形どった木のぬくもりを感じる木工品。来られなかったお友達のことを思い浮かべながら、一つ一つ丁寧に作り上げていた。
スーパードール紙飛行機作りはなかなか難しく、物作りに没頭するこどもたちの姿は真剣そのものだった。そして、やっとで

きた飛行機を手に、汗だくで飛ばし合う活き活きとしたこどもたちの瞳がとても印象的だった。空に向かって何度でも飛行機を飛ばすこどもたちの姿が、「震災地の人たちが、復興に向けて立ちあがっていく姿」に重なって見えた。
竹馬やグランドゴルフも始終笑い声が絶えない盛り上がりで、午前中はこどもたちの楽しい思い出作りの場となった。



アグネス・チャン理事を囲みステージに集結したこどもたち

開会式



開会の挨拶をする秋山理事長代行



歓迎の挨拶をする藤本高森町長

正午、高森町民体育館にて夢みるこども基金の田中儀夫理事が開会を宣言。理事長代行の秋山治夫・福岡県歯科医師会会長が、「夢みるこどもキャンペーンは、今年は11年目として新たなスタート台に立った。皆さんの夢づくりのために、キャンペーンをさらに広げていきたい」と挨拶した。そして、今回のイベントに全面的に協力して頂いた高森町の藤本正一町長が挨拶し、アグネス・チャン理事がキャンペーンのVTRと共にこれまでの活動を紹介した。
つづいて、海外ボランティア事業をしている「ネパール歯科医療協力会」へ三十万円、「福岡・ネパール児童教育振興会」へ十万円、バン格拉デシュ「夢みるこども基金学校」には高校開設費として三百万円の寄付の目録が贈られた。

山古志、福岡・玄界島の震災地の友と

(株)・日本通運(株)・(株)ジーシー
福岡県教育委員会・福岡市・福岡市教育委員会・熊本県・熊本県教育委員会
会・日本歯科衛生士会・日本歯科技工士会・歯科関係学術団体



夢みるこども基金

互いに助け合っの竹馬乗り



第11回「キャンペーンのふる里で新イベント」

■主催：夢みるこども基金 ■協力：日本歯科医師会 ■協賛：日本
■後援：厚生労働省・NHK福岡放送局・NHK熊本放送局・福
熊本県高森町・熊本県高森町教育委員会・各都道府県歯



細かな神経を使っの紙飛行機づくり



珍プレーが続出したグランドゴルフ

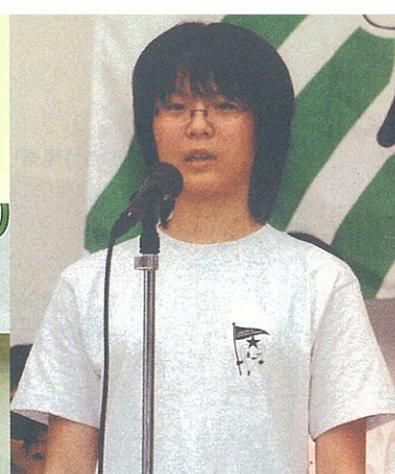


そして、参加したこどもたち72人の紹介のあと、こども会議代表の熊本・硯台小学校5年田口悠介君、福岡・筑紫学園中学校1年ラフマン・シャハナさん、福岡・筑紫丘中学校1年前原みどりさんの3人が、それぞれの夢を披露した。また、山古志、玄界島のこども2人が震災時の状況や体験を報告。山古志中学校3年の五十嵐里美さんは「住み慣れた山古志村を離れるのは辛かった。いつ村に帰れるか分からない不安な日々の中で、全国の人たちからの「頑張れ」の一言がすこくうれしく勇気づけられた」と語った。そして「辛い経験をしたが、人のあたたかさに気付かされた。私たちが復興に向けて頑張ること、それがたくさん元気をもらった恩返しになると思う。必ず山古志を復興します」と決意を語った。

玄界小学校6年の井上晃輔くんは「地震の後、外にでると周りの景色が変わっていて驚いた。全国からの支援金や周りの人々の支えに感謝している」と話した。

その後、地元のこどもたちによる「風鎮太鼓」の披露や、アグネス・チャン理事とこどもたち全員で、キャンペーンのテーマソング「ドント・ストップ・マイドリーム」の大合唱で会場は一体となった。最後に、それぞれの夢を書いたこどもたちの手形のモニュメントを、高さ3メートルの「手形の木」にかけ、また何年後かにここでの再会を誓い合った。

現状報告をする山古志代表の五十嵐里美さん



歯のふる里で新潟・山古志、備前・玄界島の震災の

金■協力：日本歯科医師会 ■協賛：日本航空（株）・日本通運（株）・（株）ジーシー
日K福岡放送局・NHK熊本放送局・福岡県・福岡県教育委員会・熊本市・福岡市教育委員会・熊本県・熊本県教育委員会
熊本県高森町教育委員会・各都道府県歯科医師会・日本歯科衛生士会・日本歯科技工士会・歯科関係学術団体



基金の代表(右)から山古志と玄界島の代表への土産品の贈呈



夢を込めた手形づくり



留守部隊の仲間への木工品づくり



会場を盛り上げた地元のこどもたちの風鎮太鼓

30日にバスで熊本まで移動した子どもたちは、阿蘇山火口や高森湧水トンネル公園などの数々の名所を驚きの眼で見学した。

イベント前夜祭は、平成15年3月末に廃校となった熊本県高森町の上色見小学校校庭で行われた。夢みる子どもキャンペーンの旗掲揚から始まり、バーベキュー、キャンプファイヤーなどが子どもたちを楽しませた。

目の前で赤々と大きく燃え盛るキャンプファイヤーには、皆が興奮し、火を囲んでゲームや出し物として各小学校の校歌を合唱するなど大いに盛り上がった。

そこにはもう出身地や年齢などは関係なく、阿蘇の大自然の中で一緒にしゃがまわる仲間の姿があった。廃校となってしまった小学校から久々に響いた子どもたちの笑い声だった。



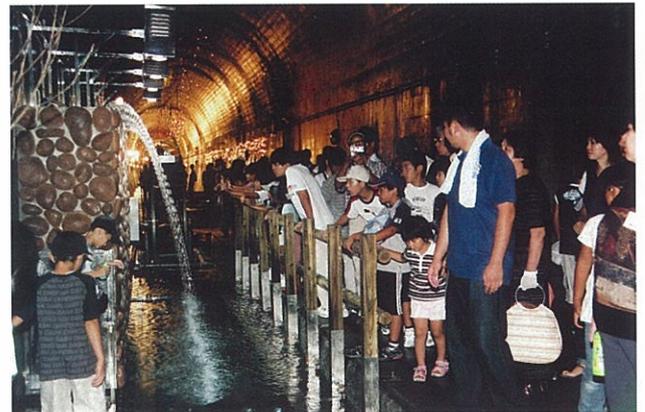
玄界島代表の井上晃輔くん



キャンプファイヤーを囲みゲームを楽しむ子どもたち



阿蘇山の火口見物



涼感満点の高森町湧水トンネルは子どもたちの人気を集めた



阿蘇の大自然の中で仲間たちとの出会いを喜ぶ子どもたち(後方は根子岳)



金基まつり

上色見小校庭にひるがえる基金の旗



バーベキューで食欲も進む



ホームステイ先の家族との顔合わせ



花火に歓声を上げるこどもたち



夏のイベント決定

夢みるこども基金の第11回こども会議が、4月3日、福岡市中央区天神のアクロス福岡で開かれた。

会議には、基金が全国の小、中学生を対象に募集した「わたしのかなえない夢」の作文・絵の応募作品1751点の中で入賞した24人が出席した。付き添いの

父兄、基金関係者、一般市民約150人が集まった。秋山治夫理事長代行（福岡県歯科医師会会長）が「今回の応募作品は、新潟やスマトラで大地震があったこともあり、地震で困っている人たちに役立ちたいという内容のものが多かった。基金はこどもの夢づくりの他にも、さまざまな社会貢献活動をしており、私たち歯科医師も一層の支援をして行きたい」と挨拶した。

活発な意見が出た「こども会議」



田中儀夫理事（元読売新聞西部本社福岡総局長）が作文について、平松暁実行委員（グラフィックデザイナー）が絵について、それぞれ審査結果を説明した。

続いて、アグネス・チャン理事が11年目に入ったキャンペーンの経過について報告。こどもたちがたくさん夢をみるることによって、世界がよくなると思う」と語りかけた。

入賞者の表彰の後、作文の部で最優秀賞に輝いた田口悠介君（熊本・碩台小5年）とラフマン・シャハナさん（福岡・筑紫女学園中1年）、絵の部の優秀賞の古賀優貴さ

ん（福岡・昭代第二小4年）と箱田勝君（福岡・菅松小6年）が、作文の朗読や絵を披露した。

このあと、アグネス・チャン理事と陶山賢治氏（南日本放送編成本部長）が、コーディネーターになって全体会議が開かれた。こどもたちは、作文や絵にこめた自分たちの夢について発言し、意見を述べた。そして、今年の夏のイベントは、熊本県阿蘇に、新潟県・山古志と福岡市・玄界島のこどもたちを招いて、ホームステイなどの交流を通じて励まし合うことを決めた。

2004年「わたしのかなえない夢」作文・絵コンクールの応募総数と入賞・佳作の内訳は次の通り。

◆応募総数1751点 (作文1358点・絵393点)
◆入賞・佳作
【作文】
▼最優秀賞二
▼特選八
▼佳作八〇
【絵】
▼優秀賞二
▼特選五
▼入選六
▼佳作三九

玄界島の被災者を慰問

夢みるこども基金の「第11回こども会議」が開かれた4月3日夕、会議を終えたこどもたち15人とアグネス・チャン理事が、福岡県西方沖地震で被災した



玄界島の被災者を慰問するアグネス理事とこどもたち

福岡市・玄界島の人たち約四五〇人が避難している、同市中央区の九電記念体育館を慰問した。

こどもたちは「地震に負けないで下さい」「いつも夢を忘れずに頑張ってください」のプラカードを掲げ、こども代表が、夏のイベントに玄界島と新潟・山古志のこどもたちを招くことが、この日のこども会議で決まったことを報告。「元気で早く島へ帰れるよう願っています」と励ました。このあと、保育園児と小、中学生計七三人に塗り絵やノート、エンピツなどを贈った。

アグネス理事は「ひなげしの花」やこども基金のテーマソングなど4曲を披露した。ステージから降りてからも、被災者たちと手を取り合って励まし、涙ぐむ被災者もいた。

第11回 こども宣言

平成17年7月31日、第11回夢みるこどもキャンペーン「キャンペーンのふる里で新潟・山古志・福岡・玄界島の震災地の友と交流」参加者一同



震と日本は相次いで大災害に見舞われました。たった一瞬のうちに暮らしたすべてが失われてしまったお友達、生まれ育った島を離れ、別の地で生活すること

山古志、玄界島は今、復興に向けて頑張っています。私たちは悲惨な被害を引き起こしたこの地震を忘れてはいけなと思います。互いに支え合い、生きているというこども。

を余儀なくされたお友達がいます。また、こども会議のメンバーの中にもスマトラ沖地震の被害に遭遇した人がいます。同じように地震を体験したお友達だからこそ同じ合えたのかもしれない。地震で失ったものの大きさは計り知れません。でもその一方で、失って初めて気付くものがありました。それは「助け合いの心」です。

こどもたちの夢を、大人が応援団になって実現しようという「夢みるこどもキャンペーン」は今日一日だけのものではありません。山古志、玄界島のこどもたちの明るい笑顔は、私たちにも勇気と希望を与えてくれました。私たちはこの出会いを胸に刻み、夢を持ち続け、力強く、そして一生懸命生きていきたいと思えます。

私たちの小さな夢が、たくさんの人々の協力で大きくふくらみ、今日、全国のこどもたちがこどもキャンペーンのふる里の地・阿蘇に集い、夢みるこどもキャンペーンの第11回イベント「キャンペーンのふる里で新潟・山古志、福岡・玄界島の震災地の友と交流」を開きました。

今、自然災害のみならず世界各地でテロや紛争が起こっており、今まで「他人事」としてしか見ていなかった事がいつ自分の事になるか分からない世の中になつてきています。昨日自分が助けた友に今日日助けられることもあるのです。

こういう時代だからこそ、私たちが手を取り合って人と人とのつながりを確かなものとし、気持ちを一つにして明日を切り開いていかねばならないと思っています。

昨年秋に起こった新潟県中越地震、そして今年3月の福岡県西方沖地震

2005年 夢みるこどもキャンペーン 第11回 イベント 「キャンペーンのふる里で新潟・山古志、福岡・玄界島の震災地の友と交流」



「こども宣言」を元気に発表する基金の代表

「わたしのかなえたい夢」最優秀作文

海上保安官は海のプロ

熊本県 碩台小学校5年
田口 悠介



茶色にごり、まだ波が高い海で行方不明の人を探す赤いボートに乗った海上保安官達。この人達のようにするのが、ぼくの夢です。

スマトラ地しん、そしてその後の大津波が起こった時、ぼくはマレーシアのペナン島にいました。津波がきた時にはたまたま海にいなかったの、ぼく達はひ害にあうことはありませんでした。ぼくがとまっていたホテルの近くの海岸が、ペナン島で一番大変なひ害を受けていました。

朝、町に出かけていたぼく達が帰りに見たものは、道にあがった漁船、こわれた車、こわれた道、こわれた家、高台にひなんしている人達でした。空にはヘリコプター、海

には行方不明の人を探す海上保安庁の船、道路はけが人を運ぶ救急車が次から次を通り、大きすぎになっていて、大変なことが起きたんだということがわかりました。

「海猿」これは、ぼくが大好きな本です。海で救助活動をしたり、海の安全を守る海上保安官の物語です。この本と出会ってから、ぼくは将来海上保安官になろうと決めています。

ペナン島で、高い波の中、小さな船で救助しているすがたを見て、そして日本に帰ってからいろいろな国の救助隊員がひ災者を助けているすがたをテレビで見て、大変だけどとても大事な仕事だなあと思い、なりたいという気持ちますます強くなってきています。

今、インターネットや本でどうやったら海上保安官になれるのか調べたりしています。今のぼくができる事は、海上保安大学に行けるように学校で勉強したり部活動などで体をきたえることなので、しっかりとがんばりたいと思います。

これから先、今回のような津波や事故があってはならないけれど、もしもの時にはたくさんの人を助けられるような海上保安官になるのがぼくの夢です。

イラストの部・優秀賞



「魚が楽しく暮らせる川」

福岡県 筈松小学校6年
箱田 勝

ここは川の中です。こんなふうに、魚が仲よく楽しく暮らせる川があったらいいと思います。



「保育士になりたい」

福岡県 昭代第二小学校4年
古賀 優貴



私のしょうらいの夢は「保育士」になることです。にぎやかなカーテンで、こどもたちをむかえる先生になりたい。



「わたしのかなえたい夢」最優秀作文

世界の人と ひとつかまの飯を食う

福岡県 筑紫女学園中学校1年
ラフマン・シャハナ



日本には古くから『ひとつかまの飯を食う』という慣用句がある。生活を共にし、親しく暮らすという意味だ。しかし、私にとってもう一つの意味がある。

今年の夏、親が生まれ育ったバングラデシュに帰った。そこでは逃れることのできない問題がある。食事だ。幼いころから日本料理も食べてきたため、辛いものが苦手だ。だから、行ったときにはいつも別に作ってある。日本にいてもこの問題は同じ。私が「辛い」と文句を言わないように、いつも母は気をを使う。そして、イスラム教の私は豚肉を食べるはいけないので、日本人と同じ食事をすることはムリ。

近ごろは、いろんな食べ物に豚肉や豚のエキスが使われていることに気付き、買う前に必ず原材料を見ている。小学校の給食の時は、毎日、豚を使っているおかずのかわりに何か持って行った。

はっきり言うと、この生活はイヤになる。好きな食べ物を食べれないから。宗教はしょうがないけど、辛いとかの問題で、みんなと違う食事をするこの気持ち。できることなら、友達とも、豚肉の入っていない料理を食べたい。その時いつも思う。なんで、同じ料理を食べることができないのかと。

私の夢は、実現しにくい夢だ。人には好き嫌いがある。また、宗教などで食べ物を制限される。宗教も大切なものだけに、破るなんてできない。紛争があっているところは、十分に栄養がとれない。家族で食事をしたことがない子もいる。そんな心配のいらぬ鍋で、温かい食事をしたい。

ひとつかまの飯を食う。これは民族・人種・国境を越え、世界の人々といっしょに食べることだと思う。これこそ、親しくなるという意味だと思う。この夢は、私の将来の夢ではない。みんなの想いが一つになってこそ、かなえられる。この夏、私が強く感じた夢だ。

阿蘇は心の故郷

長尾 怜美

(夢みることも基金理事、第1回イベント参加者)

10年ぶりにこの地にやってきた。何も変わっていない。新鮮な空気、冷たい水、人々の優しさ。どれも懐かしさでいっぱい。まるで母親の胎内に戻ったような温かい居心地の良さを感じた。周囲を見渡すと360度連なつた阿蘇外輪山。神の両手に包まれ、守られている気さえた。

地元の人々は総出でこの上もない手料理と笑顔で歓迎してくれた。こんなにも「人」は「人」に優しくできるものなのだろうか。競争社会に少し疲れていた私は強い衝撃を受けた。人は「もの」では感動しない。そこに、人の「純粋な魂」が含まれていて初めて感銘を受けるのだ。

10年前、2泊3日滞在した幼い私たちでさえ別れ際に大声で泣いた。瞬時にこの地の優しさの中に同化してしまったのだ。別れがとても辛かった。今でも、当時のホームステイ家族のことは忘れて



いない。今ここにこうして私と同じ経験をしたこともたちがいる。おそらく一生、この大自然と人々の交流を忘れないだろう。

何かにつまずいたらまた、ここにくれぱいい。何か悩んだら、またこの地が答えを出してくれる。そんな気がした。阿蘇は私の故郷に既になつていった。そして初心に戻れそうな気がした。確かアグネスさんも同じことを言っておられた。自分の生き方に悩んでいたとき、母の故郷である中国の奥地の村に戻ったとき、絶大な歓迎を受け、「帰ってきたツバメ」を村全体で熱唱してくれた、と。勇気をもらい自分の果たすべき役割を再確認した、と。そこに自分の原点はあるのだ、と。私も同じ心境だ。

こども会議も早11年。この節目に阿蘇に帰って来られたことに感謝している。また、新たな原動力を皆さんから頂いた気がする。この感動を多くのこどもたちに広げていくことが、私たちの役目だと思っている。紆余曲折がありながらも、私たちは前進していく決意を得ることができた。阿蘇のみなさん、本当にありがとう。

マスコミ各社の取材殺到!!!

今回のイベントには新聞社、放送局、通信社のほとんどのマスコミに取材に来て頂いた。新聞は、地元の熊本日日が一面と社会面でカラー写真付きで大きく扱った。西日本が社会面でカラー写真付きで、毎日、読売が社会面で、朝日が熊本版で報道した。

また、テレビ局も熊本、福岡のほとんどの局が当日のニュースとして報道したのを始め、特集番組で取り上げた局もあり、夢みるこどももキャンペーンのPRの大きな力になった。

このようなマスコミの報道によって、このキャンペーンが社会的にも広く認められ、応援して頂いている歯科医院などにも浸透して、キャンペーンの輪がさらに広がることを基金の関係者も期待している。



「夢みる子ども基金学校」現状と将来展望

Bangladesh 「夢みる子ども基金学校」
日本側窓口 ラフマン・モクレスール

1999年1月に誕生した「夢みる子ども基金学校」は、その後着実に足を固め、前進し続けています。今は、カラムディ村のある30万人の人口を持つガンニー郡民の中に、基金学校の名前を知らない人は誰もいないと確信しています。

わずか3学年で3つの教室、4人の先生と100人足らずの生徒でスタートした「夢みる子ども基金学校」は、2003年に中学校を建設。今では生徒数も400人以上、先生は約20人、校舎も3階建てで12教室あります。

Bangladesh では毎年12月に、5年生と8年生を対象に、郡単位で「優等生」を決めるための教育委員会主催の試験が行われます。試験には、すべての学校が参加しますが、全員受験することができず、受験者はそれぞれの学校が決定します。試験には、優れた成績を収める見込みのある生徒が送り出されます。田舎の学校からは、だいたい2、3人の生徒がこの試験を受け、「優等生」のリストに入るのはとても困難です。10年に1人も「優等生」が出ない学校はめずらしくありません。「優等生」に選ばれた生徒には、月々奨学金も給付され、本人も、学校にとっても大変名誉なことです。

「夢みる子ども基金学校」からは、ほぼ毎年10人以上の「優等生」が出ています。昨年12月の試験では5年生から15人、8年生から7人の生徒が選ばれました。これは、「夢みる子ども基金学校」の教育水準の高さを表していると思います。また、今年2月に行われた弁論大会では、全国優勝を果たしました。

「夢みる子ども基金学校」に対する地域住民の期待は高く、昨

夢みる子ども基金は、17年度、 Bangladesh の「夢みる子ども基金学校」に300万円、「ネパール歯科医療協会」に30万円、「福岡・ネパール児童教育振興会」に10万円を寄付しました。



夢みる子ども基金学校の高校建設予定地

年夏の現地訪問の際に、是非高校を建設して欲しいとの強い要望が出されました。そのため、現地NGOの「シヨングニ」は土地を確保し、建設資金を夢みる子ども基金にお願いしたところ、300万円の寄付を頂き、現在の学校の100m南に着々と建設が進んでいます。2006年7月に、開校式を行う予定にしており、すでにカリキュラム作成や教員募集なども始まっています。

Bangladesh で教育水準を高めるための一番の問題は、優秀な教員の育成です。高校開設と同時に、教員養成学校（大学）を建設することがこれからの大きな課題です。

これからも、「夢みる子ども基金学校」への皆様のご協力ご支援をよろしくお願い致します。

19次隊プロジェクト展開

ネパール歯科医療協会 理事長 中村 修一

1989年から開始した、ネパールでの歯科保健医療協力活動は17年間で18回のミッションを現地に派遣しました。この間、ネパールの12箇所のフィールドで13,173人に歯科診療を、51,819人に虫歯予防の為に健康教育やフッ素洗口や栄養指導などの保健活動を実施しています。合計で64,992人になります。このプロジェクトに参加した日本人隊員は513人（女性40%）を数えます。

現在19次隊プロジェクトが展開中です。19人の隊員が全国から集まり、テチョー村、ダバケル村、スナコシ村、チャバガオン村で、①歯科診療②成人歯科保健（歯周病予防を目的とした）③学校歯科保健④母子保健と母子歯科保健を展開する予定です。歯科診療はテチョー村ヘルスプロモーションセンターで実施しますが、本年度は特にネパール人歯科医師との技術協力をより推進したいと計画しています。

学校歯科保健は、まずこれまで実施してきたフィールドの活動評価活動を実施します。評価内容は、①プロセス評価として、学校保健カリキュラム、フッ化物洗口・健康教育の実施状況②環境評価として、母親・村人・現地歯科医師など学校関係者以外の実施状況などです。次に自立的活動（C O H Wの活動）の評価として学校間較差へと取り組みを評価し、併せて保護者（母親）への健康教育プログラムの開発を行います。

このように多岐にわたる歯科保健活動に対し、「夢みる子ども基金」から補助金を頂くこととなりました。関係者一同深く感謝しています。ありがとうございます。

コーヒープロジェクト計画実行中

NPO法人福岡・ネパール児童教育振興会 理事長 篠隈 光彦

今年度も「夢みる子ども基金」様より、ネパール児童教育支援にご寄付賜り、心より感謝申し上げます。

おかげさまで、「福岡・ニルマルポカリ学校」は幼稚園から高校までをイメージするところの増築工事を完了し、全校生徒（幼稚園から8年生まで）270名を収容できるまでになりました。残る大きな課題は経済支援終了後、2009年からの村人による自立運営に関する計画だけです。

ニルマルポカリ村の農家は、自給自足の生活がやっとなで、現金収入の道はほとんどありません。当振興会は、彼らの生活向上のためにコーヒープロジェクトを計画実行中ですが、まず、農家がやるべき苗木の育成に関して、彼らの底力を見せてくれません。苗木は無残にも枯れ、収穫の夢は先延ばしになっています。今年の苗は何としても生育させ、努力が実を結ぶ原理と農業というシステムを彼らが実感し得るように、忍耐を持って叱咤激励し、この事業を成功に導かねばなりません。

発展途上国とはその名の通り、いつまでも貧しいままで支援に頼ってばかりではいけないのです。支援を礎に、自らの英知で未来を創り上げてほしいと切に願っております。

ともあれ、大きな事故もなく頑張って登校する子どもたちの姿に、頼もしさを感じ、安堵致しております。

夢みるこども基金 寄付一覧表

	寄付金内容	金額
平成7年8月	24時間テレビ愛は地球を救う	300,000
平成9年7月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成10年3月	Bangladesh Dreaming Children's Fund School (School Construction)	2,000,000
平成10年7月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成11年3月	Bangladesh Dreaming Children's Fund School (School Construction Subsidy)	600,000
平成11年9月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成11年9月	ネパール児童教育振興会	100,000
平成11年12月	Bangladesh Dreaming Children's Fund School	100,000
平成12年10月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成12年10月	ネパール児童教育振興会	100,000
平成13年10月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成13年10月	ネパール児童教育振興会	100,000
平成13年12月	Bangladesh Dreaming Children's Fund School	2,000,001
平成14年3月	日本歯科医師会8020推進財団	2,000,000
平成14年9月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成14年9月	ネパール児童教育振興会	100,000
平成14年9月	Bangladesh Dreaming Children's Fund School	100,116
平成15年1月	九州盲導犬協会(盲導犬1頭)	1,800,000
平成15年10月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成15年10月	ネパール児童教育振興会	100,000
平成15年10月	Bangladesh Dreaming Children's Fund School	99,999
平成16年6月	Bangladesh Dreaming Children's Fund School (Copier 200,000 included)	300,119
平成16年9月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成16年9月	ネパール児童教育振興会	100,000
平成17年1月	新潟県中越地震	3,000,000
平成17年4月	Bangladesh Dreaming Children's Fund School	3,000,000
平成17年6月	スマトラ沖地震	2,000,000
平成17年8月	ネパール歯科医療協会	300,000
平成17年8月	ネパール児童教育振興会	100,000
	合計	20,700,235



盲導犬「夢みるこども基金・はつくん1号」

地震被災者などに義援金

新潟300万円、スマトラ200万円

夢みるこども基金は、こどもたちの「夢の実現」の本来の目的の他に、国の内外を問わず福祉関連事業などへの支援も行っているが、平成16年度から17年度にかけて、新潟県中越地震への義援金拠出などを行った。

まず、新潟県中越地震の被災者に対しては300万円、スマトラ沖地震の

被災者にも200万円を、いずれも日本歯科医師会の災害対策本部などを通じて拠出した。

また、平成10年度から支援を続けている Bangladesh Dreaming Children's Fund School は、小学校、中学校に続き、平成18年度に高校を開設するため、その建設資金として300万円を贈った。

これで同校への寄付総額は、820万235円となった。

同校は将来、教員養成の大学も開設し、 Bangladesh Dreaming Children's Fund School の国造りの人材を輩出する計画を立てている。「夢みるこども基金学校」は基金にとつて、海外でのこどもたちの「夢作り」のシンボリック存在で、長期的な視点で支援を続けていくことを考えている。

Bangladesh Dreaming Children's Fund School の国内でも、「夢みるこども基金学校」は人材育成の一つの拠点になるーとして注目を集めており、各方面から視察などが相次いでいると

いう。

学校では平成16年度から、基金の「わたしのかなえない夢」の作文・イラスト募集にも作品を送ってきており、3人が入賞した。こどもたちは「日本の仲間と交流を深めたい」と意気込んでいる。

この他、基金はネパールで歯の無料検診などの活動を行っている「ネパール歯科医療協会」と、同じネパールでこどもたちの教育振興に力を入れている「NPO法人・ネパール児童教育振興会」にも毎年度、支援金を贈り、感謝されている。

こどもたちの夢がかなうまで...



①作文・イラストの募集

毎年、「私かなえたい夢」をテーマに公募。対象は全国の小学4年生～中学2年生まで



②審査

「夢みるこども基金」理事会・実行委員会にて、作文・イラストを審査し、入賞者を決定

③こども会議

春休みに入賞者を招待し、「こども会議」を開催。夏休みに行う「夢のイベント」を決定

④夢のイベント

夏休みに「こども会議」のメンバーを招待し、夢を実現させるイベントを開催



※詳細はホームページをご覧ください。

これまでの夢のイベント

平成7年 7/27	第1回「阿蘇こども出会いの里」 熊本県・阿蘇で開催。阪神大震災で両親を亡くしたこどもたちを阿蘇に招き、ホームステイ。こども会議のこどもたちや地元のこどもたちと大自然に触れ、交流を深めた。
平成8年 7/25～27	第2回「阿蘇こどもどり村」 熊本県・阿蘇で開催。こども会議のこどもたち、筋ジストロフィーの少年たち、阿蘇のこどもたち、関係者ら総勢約200人が参加。雄大な自然の中で交流を深めた。
平成9年 7/21～22	第3回「世界のこどもと手をつなごう」 福岡市・大手門会館で開催。バングラデシュのカラムディ村から先生と教師3人を招き、関係者も含め総勢約150人が参加。カラムディ村に「夢みるこども基金学校」の建設資金を贈呈した。
平成10年 7/24～25	第4回「夢の放送局」 福岡市・キャナルシティ博多のサンプラザで開局。こどもたちの夢トークや、筋ジストロフィーの少年バンドによるライブが行われた。また、市内中心部をラブウォークし、バングラデシュ「夢みるこども基金学校」の教材費のために募金を呼びかけた。
平成11年 8/8～9	第5回「ケーキがつかなく友情の輪」 熊本県・南関町で開催。第1回のイベントに参加したこどもたちや、当時のホームステイ先の方々なども一緒に大きなケーキ作りに挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。
平成12年 8/6	第6回「アフリカの大地に根付け こどもたちの願い」 福岡県・宇美町の農家で開催。内戦で苦しむアフリカ・スーダンに贈る食物の種子を収穫し、ユニセフを通じて現地に送った。その後、竹馬、竹とんぼ作り、こども全員で遊んだ。翌日、児童養護施設に贈呈した。
平成13年 8/5	第7回「バリアフリーの社会を作ろう」 福岡市・TNC会館で「こどもシンポジウム」を開催。バリアフリーについてのこどもたちの意見をまとめ、小泉首相や行政機関に届けた。また、福岡盲導犬協会へ盲導犬1頭の目録を寄贈した。
平成14年 8/4	第8回「世界のこどもたちと交流」 福岡市・ベイサイドプレイスで開催。「歌・踊り・食・遊び」を通じて国際交流をし、食の交流で一般市民から頂いた食事チケットの代金を九州大学留学生センターに寄付した。
平成15年 8/3	第9回「日本の心を イラクのこどもたちへ」 福岡市・アクロス福岡で開催。日本古来の遊具(竹馬、竹とんぼ、こま、折り紙、お手玉)、パッチワーク、教材費をイラクのこどもたちへ贈った。
平成16年 8/1	第10回「こどもたちが結ぶ10年の夢」 福岡市・アクロス福岡で開催。10回目の記念イベントとして第10回の「こども会議」のこどもたちに、1回～9回のイベントに参加したこどもたちも加わり、総勢52名のこどもたちが参加。全員で幅12.6mの巨大な張り絵を製作した。また、福岡盲導犬協会へ2頭目の盲導犬の目録を寄贈した。
平成17年 7/31	第11回「キャンペーンのふる里で新潟・山古志、福岡・玄界島の震災地の友と交流」 熊本県阿蘇・高森町で開催。こども会議のこども15人、新潟・山古志のこどもたち24人、福岡・玄界島のこどもたち29人、それに地元のこどもたちも加わり総勢123人のこどもたちが参加。ホームステイ、キャンプファイヤーなどで交流を深めた。また、参加できなかった山古志と玄界島のこどもたちに、木工品を手作りし贈った。イベント参加者は、これまで最多の約650人でにぎわった。

協力歯科医院内訳 (47都道府県)

県名	医院数
福岡	479
東京	212
大分	120
鹿児島	83
山口	71
熊本	70
長崎	64
神奈川	59
兵庫	58
北海道	50
佐賀	46
宮崎	45
埼玉	44
大阪	35
千葉	33
沖縄	26
福島	23
愛知	21
茨城	20
広島	20
香川	18
岡山	16
静岡	16
新潟	16
三重	13
宮城	13
青森	12
群馬	12
栃木	12
岩手	9
山形	9
愛媛	8
長野	8
奈良	7
岐阜	5
山梨	5
京都	4
滋賀	4
島根	4
福井	4
石川	3
高知	3
和歌山	3
鳥取	2
富山	2
秋田	1
徳島	1

平成17年8月19日現在
合計1789件
(この1年間の新規加入...163件)



夢みるこども基金理事
アグネス・チャン

夏の暑い中、こどもたちが全国から阿蘇に集まってきました。地震の被害を受けた福岡玄界島のこどもたち、そして、新潟山古志から来てくれたこどもたち。その元気な姿は、私たちスタッフに大きな励みとなりました。

阿蘇は少し曇りがちでしたが、



夢みるこども基金理事長
日本歯科医師会会長
井堂 孝純

こどもたちの夢を、大人が応援団になって実現していく夢みるこどもキャンペーンにとつて、11年目の今年のイベントは、大変意義深く、新しい歴史が始まったような気がします。

昨年から今年にかけて、新潟県中越地震、スマトラ沖地震、福岡県西方沖地震と大きな地震が3つ

も続いたために、春の「こども会議」では、地震の震災地の友を励ますイベントを行うことが、満場一致で決まりました。

イベントの開催地も、第

1回のイベントで阪神淡路大震災で両親を亡くしたこどもたちを招いて交流した熊本県阿蘇になりました。平成7年(1995)にスタートしたこのキャンペーンが「キャンペーンのふる里で再び震災地の友を招いて、11年目の新たなスタートを切ったことに因縁めいたものを感じました。

キャンペーンの底に流れている、人を思いやるこどもたちの優しい心は、10年という歳月が経っても変わらないことを私も実感し、うれしくなりました。阿蘇には、新潟・山古志、福岡市・玄界島から53人のこどもたちが招かれて、夢みるこども基金のこどもたちや地元のこどもたちとホームステイや様々なイベントを通じて、すっかり仲良くなりました。

緑がまぶしく、空気が澄んでいました。こどもたちは前夜祭で、花火やパーベキューを楽しみ、ホームステイ先の家族と触れ合いました。イベント当日の午前中は、私はこどもたちと一緒に、体育館でスパー紙飛行機を作ったり、地元の方が作ってくれた団子汁やおにぎりを頂いたりしました。

午後の式典では、山古志代表の五十嵐里美さんが自分の地震体験を生かして、みんなに元氣と希望を届けたいと話してくれました。私は、感動を胸にみんなの前で歌を歌いました。こどもたちもステージに上がってきて、夢みるこども基金のテーマソングを合唱しま

した。玄界島のこどもたちが歌に合わせて踊ってくれて、本当に楽しいひと時でした。

毎年、こども会議で発表してもらったこどもたちの夢と、夢に基づいて行われる夏のイベントは大人にもこどもにも大きな感動を与えてくれます。こどもたちが寂しくなった時には、夢みるこども基金の仲間と過ごした楽しい時間が、きつと心の支えになることと思います。夢を見るのはこどもたちの仕事です。そして、それを実現するお手伝いをするのが大人の仕事です。

これからもずっと、こどもたちと一緒に夢を見ていきたいです。

こどもたちは、モニュメントの手形に自分たちの夢や希望、思いを書いて樹木につるしましたが、それぞれの夢が実り、幸せな人生につながるように私も祈っています。

最後に発表した「こども宣言」は、「私たちは互いに支え、支えられて生きていくことを実感した。この出会いを胸に刻み、夢を持ち続けて一生懸命生きて行きたい」と結んでいました。

私たち大人の応援団は、このこどもたちの気持ちを受け止め、希望と潤いに満ちた社会づくりのために、こどもたちと一緒に夢を見続けたいと思います。1人でも多くの歯科医師の先生方が、このキャンペーンに加わって頂くように、よろしくお願い致します。

- ### 5団体が新たに後援
- 平成16年度に、新たに左記の2つの歯科医師会と3つの学術団体が、夢みるこども基金の理念や活動に賛同し、組織を挙げて基金の後援を決定した。
- これを受けて、それぞれの事務局から会員に基金だよりなどを配布し、多数の方々が「協力歯科医院」として登録頂いた。
- なお、日本顎咬合学会は17年7月末で後援を辞退した。
- ▽北海道歯科医師会(永山一行会長、会員3千181人)
 - ▽愛媛県歯科医師会(須之内淳二会長、会員770人)
 - ▽日本口腔衛生学会(中垣晴男理事長、会員2千469人)
 - ▽日本歯科理工学会(小田豊会長、会員2千112人)
 - ▽日本歯科技工学会(阪秀樹会長、1万3千人)

日本歯科医学会の総会に出展

日本歯科医学会(齋藤毅会長・会員87,000人)の第20回総会が、平成16年10月29日から31日まで横浜市・パシフィコ横浜で開かれ、夢みるこども基金も出展しPRした。

同総会は4年に一度、関東地区を中心に開かれており、日本デンタルショーも併せて開催されている。今回は「健康な心と身体は口腔から」がメインテーマで、シンポジウムやテーブルクリニック、公開フォーラムなどがあり盛り上がった。

夢みるこども基金は、会場の一角にコーナーを設け、これまでの活動内容をま

とめた写真パネルなどを掲示。古市悟事務局長ら職員3人が訪れた人たちに資料を配り、キャンペーンをPRした。初めて、基金の存在を知った人もおり、早速、協力歯科医院の入会手続きをして頂いた人もいた。



日本歯科医学会総会での基金の活動報告のパネル

規約改正など決定

平成16年度の、夢みるこども基金の臨時理事会が12月27日、福岡市中央区大名の福岡県歯科医師会館で開かれた。

井堂孝純理事長ら理事12人と、監事、顧問税理士、顧問弁護士が出席。井堂理事長が「日本歯科医師会の不祥事(献金問題)では皆様が大変なご心配、ご迷惑をお掛けしたことをおわび申し上げたい。基金の運営について一部会員からいろいろな意見が出ているが、基金の趣旨に添った活動を続けていきたい」と挨拶した。

秋山治夫理事長代行が議長になり、議事に入った。まず、古市悟理事・事務局長から①基金の協力歯科医院数や資産状況②新潟県中越地震に伴い、同県内の協力歯科医院15件と日本通運新潟支店へ見舞い状とお菓子を送った③バングラデシュの「夢みるこども基金学校」から、平成18年度に高校開設を計画しているの、まとまった助成金を求める要望が出ている一〇の報告があった。

議事に入り、古市事務局長から現行の規約は基金発足時に時間的な余裕がなく、駆け込み的な感じで作ったので十分ではない。この際、規約を全面的に見直したいとの提案があった。主な改正点は①理事の定数を15名から17名に増やす②イベントに参加したこどもたちが「OB・OG会」を作ったので、その代表2人を理事にする③理事の任期を2年から3年に延長する④歯科医師の代表としての理事は4名以内にする⑤基金存続のための基本金積み立て⑥基金が解散した時の財産処分⑦基金だよりに決算報告書を載せているために、他のボランティア団体などから寄付を要求する働きかけがあるので、基金だよりはに載せない。協力歯科医院には別途知らせる一〇など。吉田雅俊顧問税理士からも詳細な説明があり、原案通り承認された。

続いて、新潟県中越地震の義援金拠出について審議に入り、さまざまな意見が出たが、300万円を日本歯科医師会の災害対策本部を通じて拠出することが決まった。

アグネス・チャン理事も基金を介して、同じルートで50万円を贈るこの報告があった。

バングラデシュの「夢みるこども基金学校」は、小学校から中学校、そして高校開設計画と着実に成果を上げており、17年度は300万円の寄付をすることが決定した。

その他の議事では、基金の後援団体になっている日本顎咬合学会=平成17年7月に後援辞退=から「新潟県中越地震の被災者に基金の全財産を拠出して欲しい」との要望書が出ていることについて審議に入った。各理事から、「要請内容は問題が多く、理事会で諮るような議題ではない」「日本歯科医師会の献金問題の暗いイメージを消すために、基金の全財産を出せというのは発想が貧困だ。まともに取り合う気がしない」「基金は政治的、社会的な利害で動いてはならない」などの厳しい意見が出て、要望は認められなかった。

秋山理事長代行が「この機会に、皆さんの意見を聞いて、基金の基本姿勢を打ち出し、はっきりした方がいいと思ひ議題としてあげた。設立時の趣旨を守って社会に貢献すべきだ」、井堂理事長も「基金は今のスタンスを守り、続けてもらいたい。基金をつぶすようなことになると禍根を残す」と締めくくった。



臨時理事会。右から2人目が井堂理事長

お知らせ

規約改正に伴い、今回から収支報告書、予算書、貸借対照表の掲載はやめます。各種ボランティア団体などからの寄付要求が相次ぎ、それを助長しているきらいがあるためです。協力歯科医院に対しては、この3つの資料を基金だよりと同封してお送りします。

定期理事会議事

- ① 役員改選
- ② 実行委員委嘱
- ③ 報告
 - ▷平成16年度活動報告
 - ▷平成16年度補綴金属回収報告
- ④ 平成16年度会計決算
- ⑤ 平成16年度監査報告
- ⑥ 平成17年度予算案
- ⑦ 新年度事業計画
- ⑧ 各種団体への寄付・助成金
- ⑨ 夏のイベント
- ⑩ 今後の展開
- ⑪ その他

こども代表2人が理事に

夢みるこども基金の平成17年度定期理事会が5月30日、福岡市中央区大名の福岡県歯科医師会館で開かれた。平成16年度決算、平成17年度予算、事業計画など議案が満場一致で承認された。

理事会は、秋山治夫理事長代行(福岡県歯科医師会会長)が議長となり開会。秋山理事長代行が「夢みるこどもキャンペーンも今年で11年目。昨年の夏のイベントには、過去のイベントに参加したこどもたちも加わり『OB・OG会』も結成された。キャンペーンを支えている私たち歯科医師もさらに頑張って、こどもたちの夢づくりに協力したい」と挨拶した。

議事は人事案件から入り、新理事に『OB・OG会』代表の長尾怜美さん(第1回イベント参加者、九州歯科大3年)と山中崇照さん(第2回イベント参加者、会社員)=いずれも20歳=らの就任、実行委員の委嘱などの人事が承認された。

続いて、古市悟事務局長から16年度の活動報告、補綴金属回収報告があった。それによると、協力歯科医院は、1780件と過去最多で補綴金属の回収は524件、回収金属総重量は282.775グラムで、件数、重量とも前年を上回った。また、後援都道府県歯科医師会では新たに北海道と愛媛県が後援に加わり30都道府県になった。学術団体では日本口腔衛生学会、日本歯科技工学会、日本歯科理工学会から後援を頂いた。

平成16年度会計について、吉田雅俊顧問税理士が第11期収支報告書、同貸借対照表を説明。木村友則監事から「適正である」との監査報告があり、承認された。第12期予算書(17年度)も原案どおり承認された。

新年度事業計画では、各団体などへの寄付が論議の中心になり、16年末の臨時理事会で決定した新潟県中越地震の被災者に贈った300万円に続き、スマトラ沖地震への寄付について話し合いがあった。「新潟と同じ300万円がいい」「この種災害が起きた時の前例として、定着するのは問題がある」「金額の多寡ではなく参加することに意義がある」などの熱い論議が続いたが、200万円を贈ることで決着した。

継続的な支援を続けているバングラデシュ「夢みるこども基金学校」に300万円(16年末の臨時理事会で決定済み)、ネパール歯科医療協力会に30万円、福岡・ネパール児童教育振興会に10万円が承認された。

続いて、古市事務局長より夏のイベントを7月30、31の両日、熊本県阿蘇・高森町で開催する準備を進めているとの報告があった。イベントには、新潟県・山古志と福岡市・玄界島の震災地のこどもたちを招いて、ホームステイなどを通じて交流する予定。



高森町は町議会でイベント招致を決め、町をあげての協力を約束しているとの説明があった。

定期理事会。左が山中理事、右隣が長尾理事

☆人事

【理事】

木村 潤(日本通運(株)執行役員九州地域総括福岡支店長)
長尾怜美(夢みるこども基金OG代表、九州歯科大3年)
山中崇照(夢みるこども基金OB代表、宮崎市・会社員)

【実行委員】

中川龍比湖(福岡県歯科医師会常務理事)
山中崇照(前記)

【退任・理事】

岡留恒健(ユニセフ評議委員、元日本航空パイロット)
山田英夫(前日本通運(株)常務執行役員九州地域総括福岡支店長)

【退任・実行委員】

岡留恒健(前記)
新田豊春(前福岡県歯科医師会常務理事)

夢みるこどもキャンペーンの流れ



いつでも受付ています。

協力歯科医院のお申し込みは、随時「基金事務局」で受け付けています。入会頂くと、直ちに日通のペリカン便で、ポスター、木箱、内ボトル2個をお送りします。金属冠はこの内ボトルに入れて頂き、ボトルのみ事務局へお送り下さい。金属冠を受け取り次第、受領証と補充のボトルをお送りします。なお、登録費・年会費は一切ございません。

日通ペリカン便はいつでも出動OK!

金属冠の回収は年間を通して受け付けていますが、特に10月と11月の2か月を強化月間としています。少量しかたまってなくても構いませんので、日通ペリカン便フリーダイヤルへ電話し、日通ペリカン便の方に「着払い」と伝えて渡して下さい。無料で運んでもらえます。直接、基金事務局(092-751-0021)へ電話されても結構です。

10・11月は回収月間です。



日通の皆さん、ご苦労様です。

このキャンペーンの原動力は、全国の歯科医院などから寄せられる金属冠ですが、各方面のバックアップの中で忘れてはならないのが、前述のように輸送を担当される日本通運本社、各支店のお力添えです。基金発足当初から回収などの輸送費は全額、日本通運本社が負担、全社員の皆さんにボランティアに協力頂いています。

お知らせ 業者に委託しての回収はしていません。 国税局とも相談しています。

一部の金属回収業者が、「夢みるこども基金から委託された」「夢みるこども基金と提携している」など虚偽の話をして、歯科医院などから金属冠を集めています。当基金は、提供していただく金属冠を正確、クリアにするために、業者に委託しての回収は一切行っていません。金属冠がたまったら、日通のフリーダイヤル(0120-41-0202※回収箱の裏に明記)か、事務局へご連絡下さい。

また、当基金は設立当初から『国税局』に相談、指導を受けながらキャンペーンを進めていますので、課税関係で問題が生じた時も事務局へご連絡下さい。金属冠を送って頂いた各歯科医院等については、受領年月日・重量などを細かく記録していますので対応致します。金属冠を受け取ったら「受領証」と「感謝状」をお送りしています。

【夢みるこどもキャンペーン】

●主催/夢みるこども基金 ●協力/日本歯科医師会 ●後援/厚生労働省、日本歯科衛生士会、日本歯科技工士会、日本障害者歯科学会、日本口腔衛生学会、日本歯科技工学会、日本歯科理工学会

北海道・宮城・秋田・長野・石川・山梨・神奈川・東京・静岡・滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山・兵庫・高知・香川・愛媛・山口・広島・島根・鳥取・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の各都道府県歯科医師会 ●協賛/日本航空・日本通運(株)・(株)ジーシー